

# 付図・付表



## 付図2-1 消費性向、可処分所得、物価との関係（パネル分析）

持ち直し局面では、消費者物価の上昇が消費性向の押し上げに寄与

## (1) 推計結果

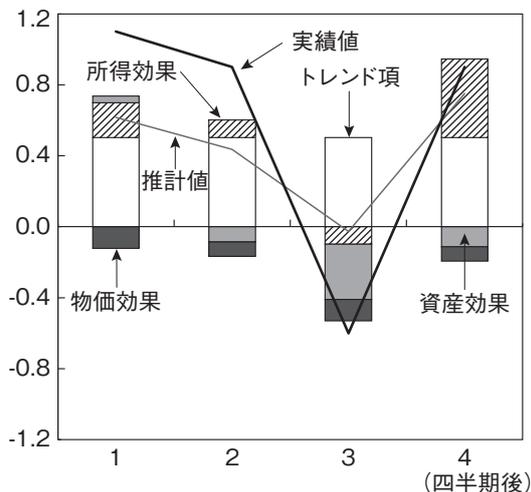
$$d(\text{消費性向}) = C(1) + C(2) * d\log(\text{可処分所得}) + C(3) * d\log(\text{実質株価}) + C(3) * d\log(\text{物価}(-1)) + \text{固定効果}$$

	被説明変数 消費性向（前期比）	
	係数	t値
可処分所得（前期比）	-0.49	-8.57
実質株価（前期比）	0.02	1.55
消費者物価（-1）（前期比）	0.40	5.76
決定係数	0.47	

## (2) 消費性向変動の寄与度分解

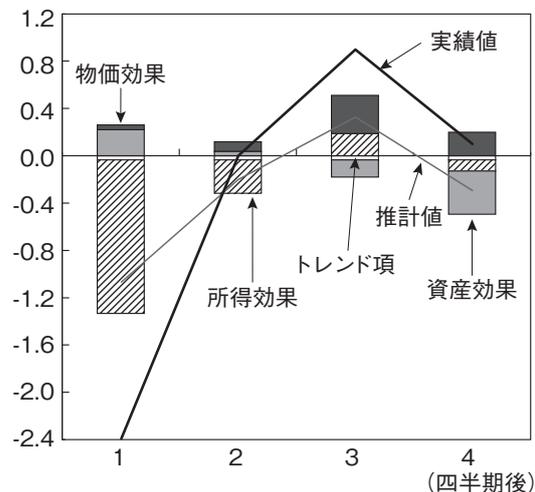
①日本（2002年Ⅰ期）

（前期差寄与度、%）



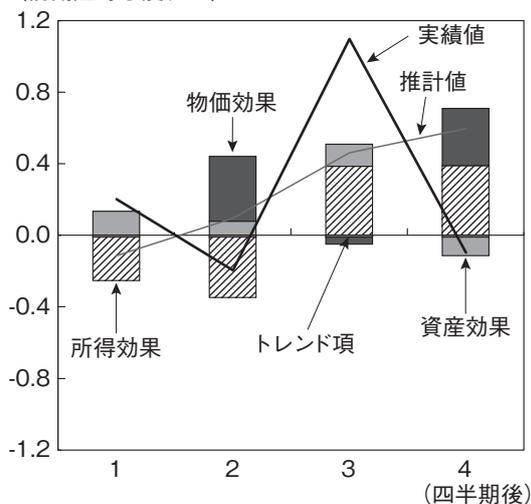
②アメリカ（2001年Ⅳ期）

（前期差寄与度、%）



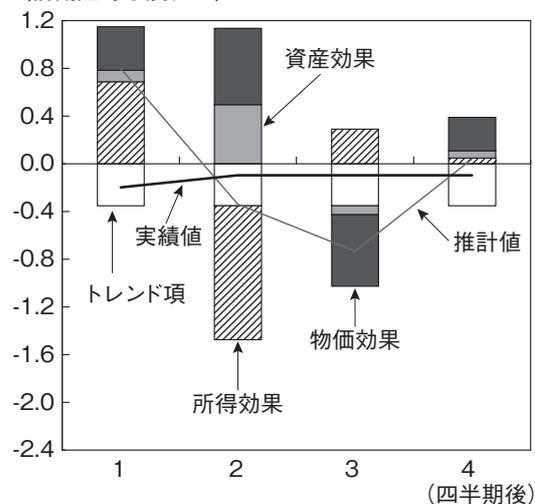
③英国（2005年Ⅲ期）

（前期差寄与度、%）



④ドイツ（2003年Ⅲ期）

（前期差寄与度、%）



(備考) 1. 国民経済計算、BEA “National Economic Account”、“Euro Stat” により作成。

2. 日本、アメリカ及び家計可処分所得と家計最終消費のデータが得られたEU12か国のデータを利用。

3. 日本、アメリカは80年Ⅰ期以降、EU諸国は99年Ⅰ期以降の、景気の谷から拡張期に入った期間を抽出して作成。

付表2-2 ユーロ各国の環境意識について

(%)

	みんなの行動が変われば、環境問題の解決に効果があるから	後世に残す地球環境がどうなるのか心配しているから	人はみな、環境を守る義務があるから	お金を節約できるから	気候変動の悪影響を直接受けたことがある（受けている）から	分からない
EU 27 各国	30.0	24.8	29.0	11.9	3.8	0.5
ドイツ	26.8	25.9	30.3	12.3	4.4	0.4
英国	30.5	27.9	27.4	10.0	3.2	1.1
イタリア	35.5	22.3	28.3	10.2	3.0	0.6
フランス	33.5	21.7	26.9	13.7	2.8	1.4
スペイン	28.3	27.1	28.8	12.1	3.8	0.0
ポーランド	33.3	18.1	29.2	14.6	2.9	1.8
ルーマニア	23.7	22.9	29.8	15.1	7.3	1.2
オランダ	30.4	27.2	26.7	9.2	5.5	0.9
チェコ	33.9	23.7	26.6	12.4	2.8	0.6
ベルギー	26.7	24.1	25.4	19.4	3.9	0.4
ギリシャ	33.0	19.6	32.0	12.4	3.1	0.0
ハンガリー	28.1	21.7	26.7	11.5	11.5	0.5
ポルトガル	31.9	18.1	30.2	14.3	4.4	1.1
スウェーデン	31.5	26.7	27.5	11.6	2.4	0.4
オーストリア	29.0	26.8	29.5	10.7	4.0	0.0
ブルガリア	31.6	18.4	30.7	14.2	2.8	2.4
デンマーク	27.2	28.7	29.0	12.2	2.9	0.0
フィンランド	31.4	26.8	27.7	10.5	3.6	0.0
スロバキア	32.0	19.0	27.5	19.0	2.4	0.0
アイルランド	29.8	24.7	34.0	6.4	5.1	0.0
リトアニア	31.3	17.4	35.4	7.7	6.7	1.5
スロベニア	28.9	25.1	26.0	14.0	6.0	0.0
ラトビア	31.5	24.4	30.4	8.3	4.2	1.2
エストニア	30.4	25.6	29.0	8.2	6.3	0.5
キプロス	25.7	23.2	32.2	7.6	11.2	0.0
ルクセンブルク	30.3	26.3	28.3	11.6	3.2	0.4
マルタ	30.8	17.1	35.4	9.2	7.1	0.4
日本	29.6	25.0	20.5	20.4	4.0	0.5

- (備考) 1. 日本は内閣府委託「平成21年度家計の意識に関する調査報告書」、ユーロ圏はEuropean Commission “Eurobarometer Special Surveys 300 (Europeans’ attitudes towards climate change)” (2008年9月) により作成。
2. 気候変動の問題解決に役立つ行動を取っているか否かという質問に対し、「取っている」もしくは「おおむね取っている」と回答した者について、気候変動の問題解決に役立つ行動を取っている理由を複数回答可で尋ねたもの。全体が100%になるよう調整した。

付表2-3 不動産に係る主な環境価値評価基準

国	評価基準名称	評価対象	経緯・目的等	評価基準等
日本	CASBEE	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業段階毎（企画、新築、既存、改修）</li> <li>・対象種別毎（建築系、住宅系、まちづくり系）</li> <li>・その他（ヒートアイランド）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2001年から現在に至るまで、国土交通省の主導の下、(財)建築環境・省エネルギー機構内に設置した委員会において、環境に配慮した建築物の普及を目的として開発が行われている。</li> <li>・事業段階に応じた企画、新築、既存、改修の4つの基本ツールと、個別目的に応じた建築、住宅、まちづくり等の拡張ツールがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①建築物のライフサイクルを通じた評価ができること、</li> <li>②「建築物の環境品質(Q)」と「建築物の環境負荷(L)」の両側面から評価すること、</li> <li>③「環境効率」の考え方をういて新たに開発された評価指標「BEE(建築物の環境効率、Building Environmental Efficiency)」で評価すること、の3つを理念としている。</li> </ul>
アメリカ	LEED	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象種別毎（新築、既存、商業用不動産内装、学校、小売用、ヘルスケア、住宅）</li> <li>・その他（近隣開発）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・96年に建築の各分野の代表で構成されるU.S. Green Building Councilによって開発された。</li> <li>・グリーンビルの設計・構造・運用に関する評価基準の提供を目的としている。</li> </ul>	<p>評価項目は景観維持、エネルギー効率、資源保護、環境の質、水資源保護、設計の6分野に分類される。</p>
英国	BREEAM	<p>対象種別毎(オーダーメイド基準、裁判所、サステナブル住宅、既存住宅、保健・衛生、工業施設、インターナショナル、刑務所、オフィス、小売店舗、教育、地域施設)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英国建築研究所BRE (Building Research Establishment) と、エネルギー・環境コンサルタントのECD (Energy and Environment) によって90年に開発された。</li> <li>・「法律より厳しい基準を掲げることにより所有者、居住者、設計者、運営者の環境配慮の自覚を高め、最良の設計・運営・維持・管理を奨励するとともにそれらの建物を区別し認識させること」を目的としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存・新築のどちらにも適用でき、管理、健康と快適、エネルギー、交通、水資源、材料、敷地利用、地域生態系、汚染の最大9分野で評価される。</li> <li>・世界で最初の環境価値評価指標であり、英国外でも広く利用されている。</li> </ul>
フランス	HQE	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HQE Associationが提供しており、96年から利用されている不動産の環境価値評価基準</li> <li>・当初は認証制度はなかったが、2004年から認証制度が開始された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境に配慮した建築」、「環境に配慮したマネジメント」、「快適性」、「健康」の4つの視点から不動産を評価している。</li> </ul>

(備考) 国土交通省「平成20年度不動産投資市場における環境対策に関する情報収集等調査報告書」により作成。

付表3-1 IT部門の分類

EU KLEMS における産業分類名		コード
IT生産部門		
製造業		
Office, accounting and computing machinery		30
Insulated wire		313
Electronic valves and tubes		321
Telecommunication equipment		322
Radio and television receivers		323
Scientific instruments		331-333
サービス業		
Post and telecommunications		64
Computer and related activities		72
IT利用部門		
製造業		
Wearing apparel, dressing and dying of fur		18
Printing, publishing and reproduction		22
Machinery, nec		29
Electrical machinery and apparatus, nec excl. Insulated wire		31 (313除く)
Medical, precision and optical instruments excl. Scientific instruments		33 (331-333除く)
Other transport equipment		35
Manufacturing nec; recycling		36-37
サービス業		
Wholesale trade and commission trade, except of motor vehicles and motorcycles		51
Retail trade, except of motor vehicles and motorcycles; repair of household goods		52
Financial intermediation, except insurance and pension funding		65
Insurance and pension funding, except compulsory social security		66
Activities related to financial intermediation		67
Renting of machinery and equipment		71
Research and development		73
Legal, technical and advertising		741-744
非IT部門		
製造業		
Food, beverages and tobacco		15-16
Textiles		17
Leather, leather and footwear		19
Wood and of wood and cork		20
Pulp, paper and paper		21
Coke, refined petroleum and nuclear fuel		23
Chemicals and chemical products		24
Rubber and plastics		25
Other non-metallic mineral		26
Basic metals		27
Fabricated metal		28
Motor vehicles, trailers and semi-trailers		34
サービス業		
Sale, maintenance and repair of motor vehicles and motorcycles; retail sale of fuel		50
Hotels and restaurants		H
Transport and storage		60-63
Real estate activities		70
Other business activities, nec		745-748
Public admin and defence; compulsory social security		L
Education		M
Health and social work		N
Other community, social and personal services		O
Sewage and refuse disposal, sanitation and similar activities		90
Activities of membership organizations nec		91
Recreational, cultural and sporting activities		92
Other service activities		93
Private households with employed persons		P
Extra-territorial organizations and bodies		Q
その他		
Agriculture, hunting, forestry and fishing		AtB
Mining and quarrying		C
Electricity, gas and water supply		E
Construction		F

(備考) Ark, Frankema, Duteweerd (2004) を参考にして作成。

付表3-2 労働生産性と就業者数の部門別寄与度分解

## (1) 労働生産性上昇率

平均変化率、寄与度（%、%pt）

	日本			アメリカ			EU 10か国		
	1990-95年	95-2000年	2000-05年	1990-95年	95-2000年	2000-05年	1990-95年	95-2000年	2000-05年
全産業	2.25	2.26	2.31	1.16	2.01	2.49	2.37	1.50	1.07
IT生産部門	0.47	0.55	0.51	0.47	0.90	0.90	—	0.41	0.30
うち製造業	0.27	0.42	0.61	0.28	0.90	0.69	—	0.11	0.07
うちサービス業	0.20	0.15	0.04	0.17	0.19	0.42	—	0.30	0.24
IT利用部門	1.17	0.70	1.12	0.39	1.09	0.87	—	0.50	0.38
うち製造業	0.18	0.15	0.27	-0.00	0.11	0.19	—	0.14	0.10
うちサービス業	0.98	0.55	0.86	0.40	1.00	0.70	—	0.37	0.29
非IT部門	0.55	1.06	0.79	0.26	0.22	0.95	—	0.64	0.43
うち製造業	0.47	0.19	0.24	0.31	0.14	0.33	—	0.21	0.24
うちサービス業	0.31	0.42	0.26	-0.18	0.15	0.64	—	0.21	0.02
その他	-0.22	0.43	0.26	0.13	-0.08	-0.02	—	0.21	0.17

## (2) 就業者数

平均変化率、寄与度（%、%pt）

	日本			アメリカ			EU 10か国		
	1990-95年	95-2000年	2000-05年	1990-95年	95-2000年	2000-05年	1990-95年	95-2000年	2000-05年
全産業	0.75	-0.41	-0.41	1.08	2.00	0.22	-0.31	1.50	0.82
IT生産部門	-0.04	0.06	-0.03	0.03	0.24	-0.16	—	0.14	0.01
うち製造業	-0.05	-0.02	-0.10	-0.04	0.03	-0.08	—	0.01	-0.03
うちサービス業	0.01	0.08	0.07	0.06	0.21	-0.08	—	0.13	0.04
IT利用部門	0.10	-0.31	-0.39	0.07	0.46	-0.12	—	0.35	0.09
うち製造業	-0.14	-0.17	-0.15	-0.08	-0.02	-0.17	—	-0.03	-0.10
うちサービス業	0.24	-0.14	-0.24	0.15	0.47	0.05	—	0.38	0.19
非IT部門	0.69	-0.16	0.01	0.98	1.31	0.51	—	1.02	0.71
うち製造業	-0.15	-0.20	-0.22	0.01	0.05	-0.21	—	0.03	-0.12
うちサービス業	0.87	0.46	0.67	0.98	1.08	0.66	—	1.05	0.83
その他	-0.03	-0.43	-0.44	-0.02	0.18	0.06	—	-0.06	0.01

- (備考) 1. “EU KLEMS database” により作成。  
 2. EU 10か国はオーストリア、ベルギー、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、スペイン、英国。  
 3. 労働生産性はマンアワーベース。部門の分け方については Ark, Frankema, and Duteweerd (2004) を参照。  
 4. 各部門の実質GDPはディヴィジア数量指数 (Tornqvist 離散近似) であるため、寄与度の合計と全産業の伸びは一致しない。